

コンソーシアム「東京薬科大学創薬エコシステム」設立趣意書

昨今の薬物治療法の発展には、低分子化合物に加えて、抗体やペプチド、核酸医薬といった新規創薬モダリティが大きな役割を果たしています。これら新規創薬モダリティは、従来の技術やノウハウの踏襲では解決困難な課題を多く有し、多面的かつ複雑な科学技術の応用展開が不可欠です。その一方で、新規医薬品の開発においては、技術や人材を含む産学の有用なリソースをスマートに統合し、効率的に活用することにより、創薬の効率化と成功確度の向上が期待されています。

東京薬科大学は、国内最大級の規模と歴史を有する医療系大学であり、一薬学部としての研究室や教室の数と研究テーマの多様性が大きな特徴です。この強みを生かし、創薬各方面のニーズの充足のために本学の有する知識・アイデア・技術の提供を通して、国内における創薬研究の確度向上と実学教育による人材育成へ貢献することを目的とした表記コンソーシアムを設立することと致しました。本校は、創薬モダリティ、体内動態、分析技術、DDSなど、種々の研究分野においても複数の教室を擁し、また、併設される生命科学部の高いサイエンスとの連携により、他大学にはないシナジーが期待されます。本システム内においては、ひとつの課題に対して複数の専門家による多面的な視点でのコンサルテーションを可能とする体制を構築します。また、同一大学内での効率的な管理体制を構築することで、契約管理等においても明確で効率的な運用を目指します。さらに、研究活動の深耕化と拡充に向けて、状況に応じた外部アカデミアの専門研究者らや機器、添加剤メーカーなどとの連携も構想しております。

【主な活動内容】

- 創薬モダリティ合成、体内動態評価、分析技術、製剤・DDS、分子生物学、免疫学など、本学を中心とした創薬関連の研究活動に関する情報共有のためのシンポジウムや技術セミナー等の開催
- 企業ニーズと大学保有のサイエンス・技術のマッチング機会の提供
- コンサルテーションのための相談窓口の設置・運営
- 情報・ニーズの深堀と課題解決策に向けた研究方針を策定する課題別討論会の体制構築と実施
- 課題別討論会での議論から抽出された具体的課題を解決するための研究クラスターの構築
- 大学院（課程）、研究生制度および社会人博士課程の活用による若手企業研究者の育成

本コンソーシアム設立趣旨をご理解いただきますとともに、是非ともご入会頂き、皆様の創薬研究活動のご発展にお役立ていただきます様、深くお願い申し上げます。

東京薬科大学研究推進機構 イノベーション推進センター

研究推進機構長

林 良雄

イノベーション推進センター長

渡邊 一哉

創薬エコシステム代表世話人

石原 比呂之